

氏名： 榊原 洋一 (SAKAKIHARA Yoichi)
所属： 人間発達教育研究センター アプリカ寄附講座
職名： 教授
学位： 医学博士
専門分野： 小児科学、小児神経学、脳科学
URL： <http://www.cf.ocha.ac.jp/ccae/index.html>
E-mail： yoichi1215@aol.com

◆研究キーワード / Keywords

小児／神経／発達／発達障害／脳科学
children / nervous system / development / developmental disabilities / brain science

◆主要業績

総数 (8) 件

- ・障害のある子どもへの指導と実践、朱鷺書房、小野次郎、榊原洋一、杉山登志郎、共編、2008
- ・脳科学の壁、講談社、2009(単著)
- ・身体リズムと生活習慣、児童心理 62：1026 - 1031、2008(論文)
- ・発達障害の概念、捉え方等 母子保健マニュアル (改定6版) 南山堂 2008 (分担執筆)
- ・見ることは信じること、チャイルドサイエンス、6巻、2 - 4, 2009

◆研究内容 / Research Pursuits

- 現在次の3つの課題について研究を進めている。
- (1) 乳児の神経学的行動観察による社会性の予知：コホートにおける多数乳児の行動観察と、心理学的テストの所見から、爾後の社会性発達を予知する方法論の策定。三重と大阪の2都市における500人の乳児コホートを3年間追跡し、生育環境や社会経済状態が、子どもの社会性や共感性に及ぼす影響を解析している。
 - (2) 注意欠陥多動性障害の早期診断と介入によるその変容の研究：保育園児に食育プログラムによる介入を1年間行い、注意欠陥多動行動の変容を解析。構造化された食育プログラムを1年間行うことによる5歳児の行動変化の研究を行い、食育によって多動行動が有意に減少することを明らかにした。
 - (3) 生育環境が子どもの生活の質 (QOL) に与える影響の国際比較。タイ、ベトナム、日本の5歳児の生活の質、問題行動、養育姿勢などについての質問紙調査を行い、生育環境や文化社会的背景が子どもの生活の質や問題行動に及ぼす影響を探索している。

Currently conducting the following 3 research projects:

- (1) Development of screening batteries for the prediction of future social development by analysing 500 infants in two cohorts by semi-structured neurological and psychological examinations. Special emphasis has been put to predict social and emotional development by directly observable neurological and behavioral variables such as muscle tonus, coordinate movement of hands
- (2) Evaluation of the effects of food education (Shokuiku) program on the hyperactive behaviors among nursery school children. Significant correlation between food-education and reduction of hyperactive behaviors has been obtained.
- (3) International comparison of QOL among young infants in Thailand, Vietnam and Japan. Intra-country comparison as well as inter-country comparison on QOL and behavioral problems as assessed by SDQ (Strength and Difficulties Questionnaire) will be made in these countries.

◆教育内容 / Educational Pursuits

- (1) 特設講座における現職保育士、幼稚園教諭への小児疾病論、脳科学、発達障害の授業とゼミの実施：保育士、幼稚園教諭に必須の子どもの疾患概論と、発達の基礎である脳発達とその障害の講義を行っている。なお、選択科目として学部学生も受講
 - (2) 大学院前期学生への、発達障害（特論）の講義の実施：自閉症、注意欠陥多動性障害などの発達障害の医学、脳科学的な視点からの解析についてゼミ形式の授業を担当
- (1) Providing lectures on common childhood disorders and brain development to in-service nursery and kindergarten teachers,
 - (2) Teaching postgraduate students on developmental disabilities such as ADHD and autism with special emphasis on their medical background.

◆研究計画

研究の中心課題は、子どもの発達、特に社会性の発達と生育環境、教育環境の関係である。また、健常発達だけでなく、高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害なのでいわゆる発達障害に生育環境が及ぼす影響である。現在データのまとめに入りつつあるコホート研究の成果を生かしながら、グローバル COE と文部科研費による、タイ、ベトナムなどのアジアにおける子ども生育環境の格差による発達の相違、ならびに発達障害の国際比較を予定している。すでに、タイ、ベトナムの研究者との共同研究の準備が終わり、今年度から実際の調査を開始する予定になっている。得られた成果は、子どもの社会性を進展させる生育環境の整備と、発達障害に対する家庭環境、教育環境の改善に有用なデータとなることが期待される。

◆メッセージ

One of the main subjects of my research is the comparison of environmental valuables and their consequence in child development especially in social cognition and behavior. Those stundets who are interested in international collaboration will be most welcome.